

# かさおか

発行所

天理教笠岡大教会

かさおか編集掛  
笠岡市用之江377  
郵便番号714-0066  
(0865)  
電話 66-1311  
FAX 66-1314



## 福廣分教会

大正13年7月9日 宣教所設立  
大正14年2月7日 奉告祭  
昭和42年4月6日 神殿建築奉告祭

立教181年  
11月号

秋季大祭講話

何事も喜びに切り替え

信仰の喜びを写そう

大教会長様



お話し下さる大教会長様

立教181年笠岡大教会秋季大祭は

10月21日、大教会長様祭主のもと、役員・教会長・よふぼく・信者、多数参拝の中、執り行われた。

大教会長様は神殿講話で、「育成の旬」という言葉から、種々、思いを巡らされ、「育成」の意義と、立教の本旨・教祖ひながたは

一つであるとして、「育成」のあり方を示され、先ず、育てる者が、信仰の喜びを身に付け、その姿を写していくことが肝心であると示唆された。要旨は次の通り。

(\*印は、編者註)

▼「育成」とは

教祖130年祭をつとめ終え、次の塚・140年祭に向かって「育成の旬」ということが言われるようになりました。

今日は、秋季大祭に当たり、立教の本旨と教祖のひながたに見る「育成」ということについてお話しします。

「育成」ということについて、いろいろと思索し、それを念頭において、大教会を挙げて、後継者講習会の後の丹誠をしたり、いろんな行事をしますが、年祭前にも、同じような行事をしていたし、年祭後も、後継者講習会の後に繋がる講習会になるようにつとめています。

その中に、何かしら「これで本当に育成になっているのか」という思いが、私は、常々にあつて、あらためて、「育成」について考え直している昨今です。

▼「目的」を持って育てる

「育成」とは育てることですが、「育てる」とは、一体、どういうことかと考える内に、ふと、「育てる」とことと「育成」とは意味が違うのではないかと思ひ付きました。

「育成」は「育てる・成る」と書くので、同じ「育てる」でも、「育てて成る」、逆に言えば「成るために育てる」ですから、漢字のうえから考えれば、ただ単に「育てる」のとは違って、そこには、「目的」があつて、その「目的」を達成するために育てていくことになります。

つまり、育てる側が、こう育てたいという「目的」をちゃんと持って育てることが、「育成」の一つの大きな意味ではないかと思ひ至りました。

世の中でも、卓球の世界的なプレイヤーになるためとか、プロ野球の選手になるために、あるいは、ゴルフアーツになるために、「目的」を持って育てていきますが、そうなれば、当然、育て方が変わってきます。

「ただ単に育てる」だけなら、食べ物・着る物や学校で必要な道具を、子どもに、与えるだけで済みますが、「目的」を持って育てる」ということになれば、何でもかんでも与えればいいので

はなく、当然、与え方も変わってきます。

例えば、「ゲームを欲しがればゲームを与える」のではなく、「サッカー選手になるのなら、ゲームをしている暇はないから、サッカーボールや良い靴を。」というふうに、目的を果たせるための育て方にしていかなければ「育成」にはなりません。

▼「育成」の「目的」は何か

とするなら、今、私たちがしているのは、「単なる育て」なのか「育成」なのか。

今、「育成の旬」だとするなら、敢えて言えば、「単なる育て」ではなく、「育成」をする、「育成」にするための「旬」だということ。

身の回りの人や我が子を「育成」していくためには、先ず、どういうふうな育成していくのか、何を以って育成していくのかを常に考えなければいけません。

そして、その目的は、やはり「人をたすけ、教えを広める」ことで、そこに向かう「育成」にしなければならぬと思ひます。

## ▼「育て」は「与え」から始まる

さて、子どもを育てるとき、食べ物  
を欲しがれば食べ物、着る物を欲し  
がれば着る物をといて、育つために  
必要なものを与えていきます。

何も与えなければ育児放棄になりま  
すから、育てていくためには、与えて  
いかなければいけません。

では、「育成」にするためには、ど  
ういう「与え方」になるのかと考えて  
みると、その答えが、正しく、教祖の  
ひながたに見出されます。

月日のやいしろに於て、一番最初  
にされたことは、金品の施し(※「貧  
に落ち切れ」)であり、つまり、ひな  
がたも、「与える」ところから始まっ  
ています。「育て」・「育成」のうえから  
も、「ひながたを辿る」うえからも、  
その第一歩は「与え」だということだ  
す。

それでは、子どもに何を与えるのか、  
衣食住に必要な物ではなくて、信仰者  
としては、何を与えていくのかと考え  
てみると、それは、信仰の力なり、信  
仰の喜びではないでしょうか。

## ▼何を「与える」のか

私は、2年半前に脳内出血で倒れま

したが、倒れた当初は医者に不足し、  
悪いことばかり考えました。——医者  
の言う通りしたのに、なぜ倒れたのか。  
医者はもう大丈夫だとお墨付きをくれ  
たのに。何が悪かったんだろう、これ  
か、あれか……。と。

しかし、全く動けない中で、「成つ  
てくるのが天の理」、「ここに神様の思  
召しがあるのだろう」と思うようにな  
り、ふと、「いんねんならば通らにや  
ならん、通つて果たさんならん」とい  
う言葉が心に浮びました。

そこに至つて、考えてみれば、  
・年祭直後だったという旬(※年祭の  
8日後)

・場所(※福山随一の脳外科病院から  
450mほどの部内教会に巡教中だつ  
た)

・血圧が高い状態ならもつと大変だつ  
たらうに、倒れたときは、血圧も下  
がつていた。

など、何もかもが、本当に不思議なご  
守護を戴いて倒れたと考えてみたとき  
に、本当にありがたい、うれしいと思  
えたのです。——それは、まだ、体が  
動かず、ICU(集中治療室)で寝たき  
りのときでした。

病気が良くなり、元気になって喜ぶ

のは普通でしょうし、そうやって、ご  
守護(お陰があったというのは、信仰  
者でなくても誰しも言えるでしょう)。

しかし、まだ、寝たきりの状態の中  
で、私は喜べた。これこそが、信仰す  
る喜び、信仰をする力ではなかったの  
かと考えました。

よく、「信仰したら良くなる」とか  
「信仰したらたすかる」とか言います  
が、考えてみたら、たすかるのもご守  
護でしょうが、別にたすからなくても、  
また、身上になることさえも、実は、  
ご守護です。それが分かるのが、本来  
の、この信仰の力ではないかと思いま  
す。

これも、2年半経つと、「良かった  
ですね、奇跡ですね、素晴らしいご守護  
ですね」と、回りの人たちがよく言  
われます。

しかし、そういう人たちには、「ご  
守護のおかげで、これだけ元気になつ  
ても、まだ、後遺症が残っています。

でも、皆さん方は、後遺症どころか、  
病気にもなっていない。ということ、  
どれだけ、大きなご守護をもらってい  
るのでしょう。何もないことの方が素  
晴しいご守護です。お互いに感謝しま  
しょう。」と言えるようになりました。

病気が良くなり、元気になって喜ぶ

何もないことこそが、本当のご守護  
だと言えるようになった。これが信仰  
の力です。

子どもを育てる、育ての元が、正し  
く、そこにあるのではないのでしょうか。

## ▼「信仰の力」を与える

思い起こしてみると、私たちの親々  
が、歳とつてから、何かに付けて、あ  
りがたい、うれしいと言っていました。  
今にして思えば、正しく、そこに、  
信仰する力があつたから、どんな中  
でも喜べたのではないのでしょうか。

初代の方々は、たすけられたご恩報  
じとして、心をいかけ・おたすけに出  
られました。しかし、鮮やかなご守護  
があつたわけでもなく、むしろ、さら  
に身上になったり、天理教の信仰を誹  
謗・中傷されたりしました。そんな中  
でも、ありがたい、うれしいと通られ  
た。常に、喜ぶ心で通り切れたのが、  
正しく、信仰の力ではなかったのかと  
思います。

これを伝えずして、これを与えずし  
て、何が「育成」でしょうか。

しかし、「信仰しないといけない。  
信仰しないとたすからない。信仰は大  
事だ。おつとめしないといけない。お

たすけしないといけない。」——思い起せば、私もまだ若い頃には、親からさんさん言われましたが、若い頃は、残念ながら、まだ、よく意味が分かりませんでした。

この信仰は、どんな中でも喜びに切り替えることができる、うれしい、ありがたいと喜べる。だから、人生の行く先で、いかなる中でも、喜んで通ることができるといふ、その信仰の喜びは、口先で伝えるのではなくて、日々の確かな信仰姿勢から伝わってこそ、信仰の力となり、そして、その喜びを与えてこそ、初めて、「育成」のうえでの「与え」ということになるのではないのでしょうか。

### ▼「信仰の喜び」を与える

お道を信仰していて、結構になることがご守護だと思ふなら、改めなければなりません。

今日も、大勢の方が参拝されましたが、「こうして元気だから、大祭も参拝でき、お供えでき、ひのきいんもできました。ありがたい、うれしい。」と喜びいっぱい参拝される人もいれば、「信仰しているから参拝しないとけない。お供えしないとけない。ひの

きいんしないとけない。」という人もいるかも知れません。同じように参拝しても、神様が受け取る筋は千筋、受け取る姿は変わってきます。

同じことなら、神様に受け取っていただけるように、喜びいっぱいであつたられたら、それこそが、育成の大きな力になるのではないのでしょうか。

「今日も元気だから、参拝できる。うれしい。お与えがあるからお供えもできた。ありがたい。」というような一言が、育てに繋がるのではないのでしょうか。

信仰を伝えるとは、そういうことだと思います。決して、難しいことではありません。

先ず、しっかりと、信仰の喜びを与えることが大切だということです。

### ▼「心の安心」を与える

しかしながら、それだけでは、育成にはなりません。

信仰の喜び、信仰の力に浴する人はたくさんいます。世界中には、いろんな信仰があつて、「神さんのおかげ。仏さんのおかげ。」と、喜び・感謝の心を持つ人は、別に、お道でなくても、いっぱいいます。

しかし、現実には、皆がたすけあう陽気ぐらしの世の中には替わっていません。信仰の喜び・感謝の心だけでは、陽気ぐらしの世の中には替わらないということですよ。

では、どうすればいいのか。正しく、天保9年10月26日、「世界をたすけたい」、その思い一つです。その思い一つで、50年のひながたを示されたのです。

先ず最初に、何もかも与えられた。——育成の第一歩です。——何もかも与えられ、気が付いたら何も無くなっていた。しかし、その中でも、「水を飲めば水の味がする」と喜び心いっぱいに通られ、どんな中でも、喜びに変えて明るく通ることができ姿を示されました。

続いて、をびやだすけに掛かられました。当時、お産で苦しむ人がたくさんいた中、何とかしてたすけてやりたいたと思われ、神様に凭れていけば何も心配は要らないと仰せられました。

これからどんな事でも月日に、もたれつかねばならん事やで 十二・37  
どのよふな事をするにも月日にて 十二・38  
もたれていれあふなけハない 十二・38  
神様に凭れたら、何も心配は要らな

い。——つまり、物・金ではなく、「心の安心」を与えられました。

そうして、身上をたすけるだけではなく、どんな身上・事情の中でも、心一つの理で、たすけられる道があると教えられました。

### ▼「たすけ心」を与える

こうしてたすけられた人々の中から、ご恩返しをしたいという人が集まってきましたが、そこで、「人をたすける」ということを教えられました。

いままでせかいぢううハ一れつに 十二・89  
め多くしやんをしてわいれども 十二・89  
なさけないのよにしやんしたとても 十二・90  
人をたすける心ないので 十二・90  
これから八月日たのみや一れつわ 十二・91

心しいかりいれか多てくれ 十二・91  
この心どふゆう事であるならば 十二・92  
せかいたすける一ちよばかりを 十二・92  
このさきハせかいぢううハ一れつに 十二・93  
よろづたがいいたすけするなら 十二・93  
月日にもその心をばうけとりて 十二・94

一人ひとり、人をたすける心、世界をたすける心を持って、皆がたすけ合うようになれば、どんなたすけも請け合うと仰っています。

教祖は、信仰によって、喜び・感謝の心、そして、心の安心を与えるだけではなく、陽気ぐらしの世の状に替わっていくために、たすけることの大切さ、人をたすける「たすけ心」も与えられました。

### ▼「目的」を再確認しよう

そのたすけ心を、私たち一人ひとりが持つて、皆がたすけ合うようになつたときに、本当に、不思議自由のご守護を現わされる。

私たちは、陽気ぐらしの世の中は、身上も事情も無くなって、何の心配事も無い世界だと思ふ向きがあります。通つて果たさんならんといひんねんも、だんだん納消はしますが、何代も掛けて積んだものですから、一代で無くなるものなのか…。

そうではなくて、身上・事情の中も、どんな中でも、たすけ合う心になることができる。これこそが、陽気ぐらしの姿ではないでしょうか。

この信仰によって、たすけ心さえも神様から与えてもらえたら、人をたすけることができる。そうして、身上・事情の中でも、おたすけの心さえあれば、「人をたすけることができうれば、

しい、ありがたい、結構や。」と、陽気心いっぱいにおたすけができる。これが、本当の陽気ぐらしの姿ではないでしょうか。

そうして皆がたすけ合う姿になつたときに、望むなら「身上・事情を無くし、15歳以降も、心次第にいつまでも。」ということになってくる。

だから、身上が良くなること、たすかつたことでも、陽気ぐらしの世界でもありません。「たすけ合える」ということが、正しく、陽気ぐらしの姿なのです。

私の身上も、すつきり良くなつていたら、ご守護いただけたい人を責めていたかも知れませんが、後遺症が遺つているからこそ、ありがたさも分かり、人の痛みも分かり、そうして、よくならなくとも、人だすけができる喜びを感じるのも、まだ、すつきりよくならないからこそです。よくなつてないからこそ、おたすけができるのです。

ここではないでしょうか。「よくなる」ことばかりを望んでいませんか。もう一度、よく考えましよう。

### ▼「目的」に向かつて

「たすけ心」を培おう

世界中の皆が、人をたすける心になつて、人だすけの道を歩む、その、たすけ合う姿を想像してみましよう。

世界中の人間が、どこの国の人も、どんな環境の人も、身上の中、事情があるが、何であるが関係なく、自分が持つてる頭脳・力・お金を以つて、何もない人は真心(たすけたいという、その心一つ)を以つて、持つてる者も持たざる者も、持ち分を活かして、自分ができる人だすけを、皆でしていったらどうでしょうか。

その、たすけ合う姿は、凄い、素晴らしいと思いませんか。

その姿を見たら、親神様もどんなに喜ばれるか。「どんな中でも、皆、こやかに、ともにたすけ合つている。うれしいなあ。」と、大層喜ばれると思います。

親として考えてみて、自分の子どもは、身上の子もいれば、事情の子もいる。言うことを聞く子もいれば、聞かない子もいる。そんな中で、子ども同士が、自分ができるおたすけをして、皆がたすけ合う姿を見たときに、親として、どれほど安心してうれしいか。親神様にしてみれば、世界中の人間は皆、可愛い我が子です。その皆がた

すけ合う姿を見たときに、どれほどうれしか。そうなると、身上・事情もなくして、心次第にいつまでもというふうになつてくるのではないかと、あらためて思います。

### ▼「たすけ心」を以つて与えよう

私たちが、たすけ心を持つて歩むうえについては、立派なにいがけを、立派なおたすけを、ということはありません。

ほんのわずかでもいいから、人をたすける心を持つて、そのたすけ心で以つて、今、(\*それぞれの成人の度合いに応じて)できること、それをしたなら、どれだけありがたいか、うれしいか。

その、「たすける」ことは、ひながたそのもの、何もかも「与える」心です。

どんな身上・事情の中であろうとも、たすけ心一つあつたら、どんなことでもできると思ひます。

言葉一つで喜びを与える。パンフレットを人に与える。自分の持つてる力を、わずかでも人に与える。そこから始めたいのです。

おさづけを取り次いで、安心を与え、

凭れることの大切さを教えてあげるのも、与えることです。

だから、よぶほくである皆さん方は、与えるものがいっぱいあるのです。

そして、与えられる(\*与えてもらう)人もいっぱいいるのです。

その道が、ひながたです。

▼早速、『育成』に取り掛かるう

「育成」と、親神様の立教の元一日の思いと、教祖ひながたは、正しく、一つです。

私たちは、「育て」で終わってしまっ  
てはいけません。直ぐに、「育成」

「おたすけ人に育てる」という、しつ  
かりとした心を常に持つて、与えを

以つて、「育成」に成るようにしつ  
かりと励みたい、かように思います。

11月25日の別席・ひのきしん団参  
にも、一人でも多くの人に声を掛け、喜

び心の一声を与えて、おちばがえりし  
ましよう。

また、3年後の大教会創立130周年記  
念祭に向かって、しっかりと「育成」

に取り掛かり、その勢いでもつて、そ  
れぞれに教祖140年祭に向かって、「育

成とは」を常に心においてつとめたな  
ら、それこそ、教祖も「よう、そこま

で、ひながたを辿つて、育成に専念し  
てくれたなあ」とお喜びいただける教  
祖の年祭を迎えられると思います。

難しく考えないでください。ひなが  
たは、ほん身近にあるということ。

「成」は、ほん身近にあるということ。  
これを、しっかりと心に置いて、ともど

もに「育成」の道を歩みましょう。

《以上、要約》

育成講習会 実施

秋季大祭後

少年会

少年会笠岡団(武内正美団長)は、10

月21日大教会で育成講習会を開催、28  
人が受講した。この講習会は、教会お

とまり会、こども会などで、実施でき  
る実技を学ぶもので、少年会本部部員・

山田道栄さんを講師に開かれた。

実技の内容は、パネルシアター。歌  
や物語に合わせてパネルに絵を貼つて

いくもので、製作から実演までを行っ  
た。

参加者らは、楽しみながらも実践の  
ポイントをつかみ、有意義な講習会と  
なった。



講師の山田道栄先生



『ジャンケンゲーム』で盛り上がる



精一杯に作り上げる

100周年記念 青年会総会 開催

10・28 本部中庭

青年会

10月28日、「創立100周年記念 第94回  
天理教青年会総会」が本部中庭で開催  
され、笠岡分会(上原明勇委員長)から  
も、100人を超える参加者があった。

天理教青年会は、大正7(1918)  
年に誕生。それ以来「あらかとよりよ  
う」の使命を胸に、100年の活動を続け  
てきた。100周年に向けては、「感謝と  
挑戦」を合言葉に、初参拝の推進、身



青年会総会へご案内

近な家庭からの陽気ぐらしの実践に取り組んできた。

この日、中山大亮青年会長は告辞の中で、「今日この日から、私たち一人ひとりが常に自分の成長を貪欲に求めて、自主的に動き回り、毎日生かされている喜びを噛みしめながら人生を楽しみ、自分の得意なことを生かして、人をたすけたい、人を喜ばせたいという誠の心をもって、その陽気ぐらしの姿を世界中に映していこう」と呼びかけられた。

また、総会前日の27日には、「100フェス！」と称する各種関連行事が親里各所で催された。



参加者一同記念写真



おぢばで勇み立つ青年会員



中山祥吉先生のご講話

今回の講師は、中山祥吉先生(本部直属・あきよ志分教会会長)。先生は、「カソイイ学生、信頼される夫、父親になるためには」というテーマで、自身

42人が参加した。

今回の講師は、中山祥吉先生(本部直属・あきよ志分教会会長)。先生は、「カソイイ学生、信頼される夫、父親になるためには」というテーマで、自身

**「父親講座」開催**  
**教会長子弟育成委員会**  
**青年会笠岡分会 共催**

教会長子弟育成委員会(森本忠善委員長)と、青年会笠岡分会(上原明勇委員長)は、「立教181年 父親講座」を10月28日、詰所で開催した。

青年会総会後に開催されたこの講座には、青年会員を始め、家族連れなど42人が参加した。



熱心に聞き入る受講者

の高校時代から現在にいたるまでのエピソードを交えながら話された。

受講者は、8人の子供の父親でもある先生の話に、熱心に聴き入っていた。



上原明勇委員長ご挨拶

## 海外布教 in 広島平和記念公園

去る11月9日、海外部恒例の海外布教 in 広島平和記念公園が実施された。海外部員でありながら、これまで一度も参加したことのなかった私がついにこの度ののをいがけに同行することとなった。

英語に堪能な部員4名と英語見習い中の2名、そして私を加えた総勢7名が大教会のワゴン車に乗込み、世界平和に関心を寄せる外国人の集う広島平和記念公園を目指した。目的地への道中、車内は様々な話題に盛り上がりを見せていたが、英語のできない私は仲間の団欒をよそに、現地でののをいがけに一人憂えていた。やがて広島インターを降り、国道54号線を南下し始めたころ、部長の上原志郎氏はおもむろに、「それではのをいがけのフレーズを一通り練習しましょう。Hello, where are you from? (こんにちは、どこの国から来られたのですか?) I would like you to read this whenever you have free time. (よろしければお時間のある時にこれをお読みください。) I would like to talk to you about our religion, Tenrikyo. (天理教という宗教についてお話をしたいのですが。) などなど、—以下省略—」



ポーランドから来たご夫妻にのをいがけ

上原氏による英語の予行演習にますます不安をあおられて現地に到着したものの、氏の奥様でありカナダに滞在経験のある千枝子夫人と共に外国人観光客にパンフレットを配ることになり、ひとまず胸をなでおろした。

それもつかの間。「真孝さんについていきます!」、と千枝子夫人に背後に回られ、やむなく未知の対象に突撃した。1人目。「Hello, where are you from? (こんにちは、どこの国から来られたのですか?)」「Germany! (ドイツです)」。"えっ、ドイツ? 英語通じんよ... どっちにしても"、ととりあえず英文パンフレットを渡し握手を交わして別れた。2人目、カッコいい黒人の女性に「Hello, ...」、緊張して言葉が続かなかった。と、ここで千枝子夫人の登場。夫人は私に救いの手を差し伸べ、ニューヨークで弁護士として経済的貧困層を支援するその黒人女性と十分な会話を交わし、そして住所、メールアドレスを交換した。その後も「Hello, where are you from? ...」と突撃しては、千枝子夫人がその後を受けて、カナダ、フランス、ポーランドなどの人々と交流した。

この度ののをいがけに参加した7名が英文パンフレットを手渡すことのできたのは、ア



世界平和を祈っておてふり

メリカ、イギリス、ロシア、イタリア、スペイン、メキシコ、ブラジル、インドネシアなど、18か国からの来日観光客であった。彼らに日本での滞在地を訪ねると、その多くが人類のふるさとおぢばに近い京都・奈良に足を運んでいることがわかった。

Hello, where are you from? このワ  
ンフレーズで、レッツ海外布教!

(海外部員 佐藤真孝)



# 談話室



## 天井点検口

稲富士分教会 須毛田 英 尋

天井点検口とは天井に取り付けする天井裏、屋根裏を点検するために設けられた開閉できる正方形の開口部の事である。

幼少の頃からの知り合いで近所の人暮らしの老女から、長年の雨漏り悩みの相談をお受けした。昭和30年代築とお見受けする10坪のトタン屋根の2階建てである。2階の部屋にはビニールシートが敷きつめられ、沢山のたらいやバケツでとても座れる状態ではなかった。天井は破れた所もあり天井クロスも至る所が垂れ下がっていた。屋上には塔屋があるので上がって作業はできる様にはなっている。とり合えず2階の天井に点検口を設け雨が降る度に漏れる場所を確認する事にした。

雨の種類によって漏れる箇所が違い点検口の効能に今更ながら感服した。例え直ぐ直らなくても原因がわかると

気分が全然違い、落ち着いておられるのだ。今年は大変大雨が多く十数度通わせて頂きあと一歩の所迄来ている。

人助けと思つて半分ひのきしん精神なのだ。人は皆、色んな事で苦しんでいる。特に原因がわからないので悩みは深刻なものとなる。いんねんがわからないととても苦しいのだ。しかしいんねんがわかってくると例え直ぐ解決できなくても、いんねんが次々と押し寄せて来ても腹が座っているから成つて来る事にたんのうで、気長に納消の道を歩ませて頂け、同時に人助けの道を歩めるというものではないかと思う。

二代真柱様がおそばの方に「天理教は何がいいと思うかね」と問われ、「それはいんねんがわかる事だよ」とおっしゃったそう。実際天井点検口を設置する事は素人では無理である。その理屈と大工の心得がないとできない様に、いんねんを悟るためには、信仰に年期が必要だ。その所行はおやさまのひながたを少しでも通らせて頂く所に、おやさまが力を貸して下さるのではないだろうか。人助けのつもりで始めさせて頂いた今回の雨漏り修繕工事

なり始めた今日この頃である。

## こころの詩

笠岡の教友が選ばれ掲載されていますので転載いたします。(敬称略)

### ▼『天理時報』

▽10月14日付「時報俳壇」

・備中◎ 塩飽利子さん

百選の棚田の畦あぜの曼珠沙華まじゅしゃげ

▽10月28日付「時報歌壇」

・海松ヶ岡◎ 池田広子さん

二日ほど雨の続いた庭すみに

生きていたよと彼岸花咲く

・芦品◎ 金谷眞佐代さん

三度目のカーブ優勝おめでとう

私もつられビールを飲んで

### ▼『陽気』誌11月号「道柳」より転載。

#### ▽準秀詠

・東悠◎ 田林美智子さん

よろこびは守護に感謝の稚児の歩み

・海松ヶ岡◎ 藤井光子さん

初孫の手を繋いで一歩ずつ

### ▼表紙写真

(吉岡輝昭かさおか編集部員)

## ・原・稿・募・集・

### 内 容

①小随筆 ②教会・布教所の独自の活動の紹介 ③俳句・和歌・川柳 ④教会行事開催後の報告記事 等々

### 字 数

1000字前後(800字~1200字) 題名・所属教会名・氏名を明記して下さい。俳句等は一句からでも結構です。

### 寄 稿 先

下記、大教会内『かさおか』編集掛宛ドシドシご寄稿下さい。

郵 便：〒714-0066 岡山県笠岡市用之江377

FAX：0865-66-1314

メール：[tenkasa@yahoo.co.jp](mailto:tenkasa@yahoo.co.jp)

尚、原稿はお返し致しませんので、予めご了承下さい。



# 秋季大祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいませ

親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様には「月日にわにんけんはじめかけたのわ よふきゆさんがみたいゆへから」と 天保九年より遡る事九億九万九千九百九十九年前 泥海から「うをとみ」とを引き出し道具を寄せて夫婦をお創造はじめになり 虫鳥畜類等と八千八度の生まれ変わりを経て この世と人間世界をお始めになりました 以来絶え間なく御守護下され知恵も力も得て今日の結構な姿をお与え下されております しかるに親心を忘れ知恵や力の使い方を誤り兄弟同士が苦しめ合う姿をご覧になるや 天保九年十月二十六日教祖を社としてこの世の表にお現れになり 五十年の長きに亘りこの世の真実を明かし 陽気ぐらしに向かうたすけ一条の道をお付け下さいました事は誠に有難い極みでございます 身上事情を通して先んじてこの道にお引き寄せ頂きました私共は 親心にお応えすべく日々は朝夕に御礼申し上げます 世界だすけのご用の上に努め励まして頂いております

分けてもこの月二十六日は立教の元一日にあたり おぢばでは秋の大祭が執り行われますので この教会に於きましても理のお許しを戴いて 只今からおつとめ奉仕人一同勇み心も一人に明るく陽気に坐りづとめてをどりをつとめて秋の大祭を執り行わせて頂きます 御前には夏の暑さから解放され実りの秋を満喫しつつ 今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が 日頃のご高恩に言改めて御礼申し上げます尚一層のたすけ心の発揚をお誓い申し上げます ご覧頂きまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて今日の日に改めて立教の元一日に込められた親心を思索し 陽気ぐらし目指して私達が迎えるべくお示し頂いた五十年のひながたを見つめ直して 陽気ぐらし実現に心を一つに睦び合わせ互いのたすけ心を磨きあつてたすけ一条に邁進させて頂く所存でございます 又十月二十八日の青年会創立百周年記念総会には青年会員が そして十一月二十五日の別席ひのきしん団参には皆がしっかりとにをいがけて 一人でも多く誘っておぢばに帰らせて頂く所存でございます 更には又本年の心定め完遂を目指し力の限りおたすけに励ませて頂く所存でございます

何卒親神様には 先行きの不安ゆえの今さえ良ければの世の風潮に流されず 先をしつかり見据えてたすけ一条に邁進する皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして 世界隅々まで親の思いが行き渡り 世界中の人が一列兄弟の理に目覚めお互いに欲を忘れて助け合つて 思召通りの陽気ぐらしの世の状が一日も早く実現しますようお導きの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

## 大教会だより

◎教人資格講習会(後期)修了者

立教181年11月10日終講

明石市 杉原輝夫



町内会で毎月第4金曜の夜8時から「火の用心」の防犯パトロールの夜回りをしてる。参加者は約20人。毎月当番で交代する。私は防犯・防災の責任者。町内は千所帯以上の大きな自治会。パトロールもA、B、Cの3コースに分かれて約40分パトロール。その後、自治会館で報告会を持つ。「何地区の街灯が消えている」「庭の植木が道路にはみ出て子どもの通学の邪魔になつている」「空き家になつているよ」等々……。それを月一度の執行役員会、定例役員会で報告。報告書は三百枚印刷して配布。必要なら自治会長と共に市に申し入れる。多忙で面倒な仕事だけれど、必要なこと、やるしかない。教会は地域の教祖の出張り場所とお聞かせ頂きます。喜んでさせて頂きます。

立教百八十一年 秋季大祭 祭典役割表

胡 三 味 琴 弓	今 川 佐 智 子	佐 藤 香 苗	中 村 義 太 郎	森 本 忠 平	吉 岡 誠 一 郎	笹 尾 正 治	吉 岡 真 一 壽	岡 崎 真 一	虫 明 好 美	田 中 ま す み	大 教 会 奥 様	上 原 繁 道	上 原 明 勇	大 教 会 長 様	内 海 史 郎	三 島 涉	佐 藤 道 孝	講 話	大 教 会 長 様	祭 主	大 教 会 長 様				
																				扨 者	門 脇 元 教 師	田 中 隆 之			
																				指 図 方	上 原 明 勇	高 木 昭 祥			
森 本 富 美 子	谷 内 美 知 子	岡 崎 豊 子	中 村 道 徳	高 木 昭 祥	浅 野 明 教	上 原 志 郎	赤 木 素 志	上 原 繁 次	室 悦 子	門 脇 加 津 子	内 海 安 博 之	杉 原 誠 治	中 島 誠 治	田 中 隆 之	三 代 温 生	山 田 敏 浩	上 原 浩	贊 者	吉 岡 誠 一 郎						
笛	上 原 繁 次	横 山 逸 郎	岡 田 誠	上 原 明 勇	田 中 つ か さ	岡 崎 和 美	武 内 正 美	山 野 弘 彦	今 川 昌 彦	中 村 剛	虫 明 立 生	武 内 清 明	門 脇 元 教	後 半	上 原 繁 道	十二月講話	上 原 繁 道	前 半	上 原 浩	役 割 区 分	坐 り 勤	地 方	内 海 史 郎	三 島 涉	佐 藤 道 孝

昭和63年 (1988年)

- 7. 10 中山たま様五十年祭
- 7. 26 ほどもおちばがえり第一団出発(神邊。二十九日迄)
- 7. 29 ほどもおちばがえり第二団出発(高尾。八月一日迄)
- 8. 1 ほどもおちばがえり第三団出発(直轄・久松四日迄)
- 8. 6 第四十一回夏季英語講習会(三〇人)
- 8. 23 少年会おとめまなび総会(五〇〇人)
- 9. 25 深谷富子先生を迎え婦人会委員部長講習会(一三〇人)
- 9. 26 福満分教会神殿建築
- 遷座祭：十月十日
- 鎮座祭：立教百五十二年十一月十日
- 奉告祭：立教百五十二年十一月十一日
- 10. 22 少年会育成講習会(五四人)
- 10. 25 布教所長研修会(八四人)
- 10. 26 篠ノ川分教会三代会長津森朋之任命(二代会長津森五辞任)
- 就任奉告祭：十一月二十三日
- 10. 26 弓ヶ濱分教会五代会長森川美智任命(四代会会長森川みよこ辞任)
- 就任奉告祭：十二月十一日
- 10. 26 弓ヶ濱分教会建築棟椽葺及附属建物増築

平成元年 (1989年)	立教152年
5・20 中山正信本部員先生出直 (六十六歳) 奉告祭：立教百五十二年三月十八日 鎮座祭：立教百五十二年三月十七日 遷座祭：四月三十日 榑勇分教会神殿建築 4・26 少年会育成講習会 (四人) 少年会鼓笛講習会 (二〇〇人) 3・28 学生春の集い直属アフリ (六〇人) 3・28 第四十二回春季英語講習会 (四〇人) 奉告祭：十月一日 鎮座祭：九月三十日 遷座祭：五月十三日 2・26 松都分教会神殿増築及内部改造 就任奉告祭：四月三十日 2・26 米府分教会四代会長三代善任命 (三代会長三代正道辞任)	この年の大教会年間統計 初席者二百二十人 おさづけの理拝載者百九十九人 修養科修了者七十七人 教 人登録者三十六人 教人総数二千二百八十一人 よふぼく総数一万七百六十四人。全教よふぼく総数百四万 二千三百六十五人。

昭和63年 (1988年)	立教151年
12・26 東城分教会六代会長横山逸郎任命 (五代会長横山道明辞任) 就任奉告祭：立教百五十二年二月十九日 11・26 神免分教会三代会長石井善任命 (二代会長石井善雄 昭和六十三年十月十三日出直) 設立場所：島根県松江市新庄町字高木二百五十九番地 奉告祭：十二月十日 鎮座祭：十二月九日 11・26 雲東分教会設立 (初代会長三代昌任命) 海松ヶ岡分教会神殿増築及附属建物増改築 11・1 大教会役員夫人中村美岐恵出直 (七十五歳) 10・29 布教所長成人講習会 (八五人) 奉告祭：立教百五十二年五月十四日 鎮座祭：立教百五十二年五月十三日 遷座祭：十一月十二日 10・26 門司港分教会神殿建築 就任奉告祭：立教百五十二年二月五日 10・26 吉舎分教会四代会長時宗一実任命 (三代会長時宗二善辞任) 就任奉告祭：十二月四日 10・26 米美分教会五代会長三代信行任命 (三代会長川上泰代辞任)	この年一月、本部員・三代会長上原繁雄の五年祭が大教会祖霊殿で執行された。